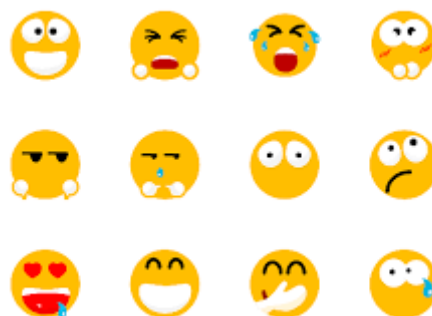


2022/6/29

(It`s a English. Our side language English II One of our side answers)書庫版



「Well being な働き方」

「Sustainable な経営」

既にありふれた語になった言葉としては

「DX(Digital transformation)」

等がメディアのそこかしこに出ておりました。

最初見た時、咄嗟には何の事だ分らず思わず考え込んでしまいました。

特に今最もありふれた語になっている DX は、ウィキペディアで調べる迄見当もつきませんでした。

ですが、今回お話ししたいのは、嘗て一時さんざんパラ言われた、忘れ去られていたゾンビの復活劇の様な「メディアにおける横文字の氾濫はけしからん」というストーリーではありません。

因みに冒頭の三つを和訳すれば、上から順に

「日々良好な状態での（になれる）働き方」

「持続可能な経営」

「デジタルを介した今までの様態や容態そのものも変える様なレベルの大変革」

という事になりましょうか。

それで、此処からが本題です。

自分が上述のキャッチコピーをみて感じた事を3つ書きます。

一つは、よくまあ一般が知らない様な英単語を知っているものだ。どこから見つけてきたんだろう？

そして今一つは、我が国のインテリは結構難しい単語をたくさん知っているのに何故英語で話したり書いたりできないのだろう？

そして三つめは、此処迄多くの単語を知っているのだったら「本当はそれらを使って自在に

話したり書いたりしたいんじゃないだろうか？その隠れ願望は相当根強いものがあるのではなかろうか？」

という事でした。

そこで思いついたのが

「だったら「今後の」It's a English. Our side language English は「今迄の」英単語の紐解きではなくて、中学卒業レベルの知識があれば誰でも簡単に手が出せる「英文（英語の文章）のつくり方（話し方、書き方）、つまり単語ではなく文章（の組み立て方）に重きを置いた読本」にした方がより有用なのではなかろうか？

という事でした。

point は

- ① 間違っても全然構わない。
- ② 知っている単語と構文を使うだけでいい
- ③ ジャストな言葉じゃなくても、組み合わせや同じ印象や効果、連想を相手から引き出す自分が言いやすく相手にもう通じる別な表現をどんどん使ってみる。
全ては実験、物は試しだと割り切ってまずは口にする。
- ④ その為には言葉一語一語に対して成る丈印象や感想を持つ様にする。記憶から引き出し易い様に。
- ⑤ こういう場合は「自分だったら」英語でどう表現するかを常日頃から考え、暇さえあればイメージトレーニングをし続ける。
- ⑥ その時話しかける或いは書いて伝えたい相手とその場面を想定（想像、念頭におく等）する。
- ⑦ 辞書は街にある看板や標識を使い、敢えて成る丈手元の手引用辞書を使わずに済ます（自分の発想を重んじる）
- ⑧ 殺生与奪の権を自分側に取戻す為に、受験や就職の事は一旦忘れる。
- ⑨ 英語はスポーツ。練習（失敗の上重ね）しないと上達しない。
- ⑩ 思い切って表情や動作を豊かにしてみる。この世の恥は掻き捨て。人生一度きりだし。

等

準備に少し時間がかかりますが次回自分はその教本作りにトライしてみようかと思っております。